

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 11 月 6 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200700		
法人名	(有) 藤山商事		
事業所名	グループホーム 縮景園		
所在地	〒734-0014 広島市中区上幟町5-17 (電話) 082-511-1121		
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 16 日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200700-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 6 日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

広島市内中心部に位置しており、目の前には名勝縮景園と隣には美術館があります。春が来ると入居者様達がとても楽しみにされている「さくらの花」を散歩しながら職員と一緒に見に行き、その美しさに毎年喜んでいらっしゃいます。当施設では毎日の生活が「ゆっくり、ゆったり」をモットーとし、又、優雅にその人達のペースで生活が出来る様支援し、環境作りに職員一同頑張っております。当施設では母体であるワカサ・リハビリ病院の院長と正看護師が週2回往診にいられてます。入居者様の高齢に伴い健康管理をお願いし、病院との連携も強化する様日々努めております。入居者様が安全に生活が出来、心落ち着かれる毎日を過ごされ、ご家族様にも信頼していただける施設体制を作っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム縮景園は市内の中心部に位置し、縮景園や県立美術館、小学校が近くにあり、利用者はゆっくり散策している。3ヶ月に一度、家族宛に請求書と一緒に、利用者の健康状態や日常の様子、写真等を送付し、家族の来訪時には、職員の方から積極的に利用者の状況を説明し、家族が困っている事や不安な事を言い出し易いように支援している。利用者や家族の意見や要望を大切に、家族と共に利用者を支えて行けるように、信頼関係作りに努めている。一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生きがい、その人らしさを把握し、利用者の出来る事や、これまでの家庭での暮らし方が継続出来るように取り組んでいる。職員は日々の関わりの中で寄り添い、利用者の喜ばれた事や困られた事、何かしたい事等の、言動や表情、対応、反応等を細かく記録し、職員間で共有し、「その人らしく日々の生活が過ごせる」ように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日朝の申し送りが終了後、その日の出勤職員と夜勤の終了者で事業所の「理念」「明日の事を思いわずらうよりも今日1日を輝いて」と大きな声で唱和をし、夜勤者にねぎらいと日勤者の1日のスタートとしてその日の実践につなげている。	事業所の理念「明日の事を思いわずらうよりも今日1日を輝いて」を事業所内に掲示し、申し送り終了後、職員で唱和している。管理者と職員は、月1回の全体会議の中で理念を確認、共有し、ミーティング時やカンファレンス時にも話し合い、利用者が楽しく、喜びのある日が過ごせるように実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との交流が難しい中で地域の方々に気持ちの良い1日を過ごしていただける様、職員が施設の前の道路入り口から出口までの清掃をし、地域の方々に朝の「おはようございます。」の声掛けをする様に心がけている。	町内会に加入しており、地域の一員として有効的な交流をし、近隣の方と挨拶を交わし、施設の周りの清掃を行っている。月1回、認知症カフェを地域包括支援センター職員・民生委員の協力の下開催し、地域の方々と交流している。新型コロナ感染予防の為、今年に入ってからは、交流出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェを包括支援センター及び、民生委員の方々の協力を得て運営しており、地域の方々に声掛けしてもらい独居にならない様三者が協力をして認知症の話やリハビリの先生に来てもらったり、気になる尿漏れの話等を折り込んで話をしたり、不安のない生活をされる様に支援をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に参加されている包括支援センターの方、民生委員の方、御家族の方との話し合いをする中で報告や意見交換をしてサービスの向上に役立てる取組みをしている。	会議は2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター職員・民生委員・家族・統括責任者、管理者の参加で開催されている。利用者の状況や活動状況、運営状況、事故・ヒヤリハット報告、家族からの相談、苦情の報告の後、話し合いをしている。そこで頂いた意見は、全体会議に取り上げ、サービス向上に活かしている。現在は、コロナの為、中止している。(包括・民生委員三者が話し合っただけで中止している。)	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の報告書を奇数月に送付している。GH縮景園の現状を知ってもらう様にして何か分からない事があれば市に相談する様にしている。市からも何か分からない事があれば親切丁寧に説明を受け理解をしながら実践に役立てている。	市担当者とは、電話や直接出向いて情報交換をし、申請手続きや内容、運営上の課題、処遇困難な事例等の相談を行い、助言を得る等、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議に参加しており、又、日頃から統括責任者が情報交換を行い連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束0」を職員一同心掛けている。今現在拘束をしないといけない入居者様はいらっしゃらない。施設で1ヶ月に一度職員全員参加のユニット会議を行っている。そこで施設内研修をし、何度か話し合いをしている。常に身体拘束0を頭の中に入れてケアに取り組んでいる。	毎月、職員全員参加の会議を行い、身体拘束、及び虐待についての施設内研修・検討会を開催し、職員一人ひとりが身体拘束についての知識、理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しているが、外出したい利用者があれば一緒に出かけ、閉塞感を持たない環境作りにも努めている。スピーチロックに気づいた時には、管理者が指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	当グループホームでは虐待は絶対ありません。市の高齢者虐待防止法等の研修をリーダーや職員が参加し、その後スタッフ同士で話し合いをし、入浴の時の身体チェックをボディチェック表に記入して、小さな打撲痕も見逃さない様にしている。又、発見した日付などもすべて記入して防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	統括責任者や管理者、ユニットリーダーは「成年後見の制度」の研修を受けている。後見人が決まるまでの協力をしっかりして個々の必要性を関係者とよく話し合い、活用出来る事は活用をしながら支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については納得のいただける説明をし、納得をしていただいた上で署名・押印をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2ヶ月に一度の運営推進会議で御家族様の意見を聞く事が出来、又地域の民生委員の方、包括支援センターの皆様の意見や事例などを聞かせてもらい、それらを運営に反映させてもらっている。	家族とは面会等を通じてコミュニケーションを多くとり、信頼関係を構築し、自然な形で意見、要望を表せるようにしている。コロナの為、3ヶ月毎に利用者の健康状態や日常の様子、写真と手紙を送付させていただいており、家族が意見を言い易いように工夫している。管理者や職員は、利用者の声に耳を傾け、苦情があれば職員間で共有し改善、向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1ヶ月に一度職員全員参加であるユニット会議があります。そこで統括責任者・管理者の参加の下運営に関して職員と共に色々な考えを聞きながら、反映をする様にしている。	毎月、職員全員参加のユニット会議や日頃の業務の中でも、職員からの意見を聞く機会を設けており、必要に応じて個人面談も行っている。職員から意見や提案の声に耳を傾け、それらの意見は会議で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員がストレスを溜めない様に体を休ませる為のリフレッシュ休暇を取れる様配慮している。又、月に2日希望休も取れる様勤務表を作る様に指示し、職員の体調を気遣い向上心を持って働ける様努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を月に1回ユニット会議で実施している。又、仕事に慣れてくると基本を忘れやすくなる為、年に一度は必ず介護の基本とオムツ交換の基本を施設内研修でしている。原点に戻り更なるスキルアップをする為に大切な事だと思っており、もう一度初心に戻り勉強をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は、統括責任者が同業者との交流を大切にし、円滑にネットワークを作る事が出来ていると常々報告受けており、活動に対して協力し支援している。そのため色々な情報を得る事が多く、サービスの質の向上に役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居されると不安で「家に帰りたい」と訴えられる事が多く、職員はその人の生きてこられた道のりをよく理解し、その人の側に寄り添い安心して過ごせる様、情報を集め、職員の統一ケアで入居者様のよりよい関係作りが出来る様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	御家族様との信頼関係を得られる様に日頃から情報の共有をしており、現在コロナウィルスの影響で面会が難しいので、入居者様一人一人の日々の生活の写真と現状をお知らせし、安心していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居されるとケアマネージャーに暫定プランを立ててもらい、ケアプランに基づいてサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「ゆっくり、ゆったり」を基本に入居者様一人一人のペースに合わせた生活をしていただき、他の入居者様や職員と仲良く日々の生活ができ安心して過ごせる様、職員全員が心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	今回はコロナウィルスが原因で家族とも会えない時間が長く、御本人様より御家族様の方が不安になられていると思いますが、こういう時にこそ入居者様・御家族様と施設が安心のある温かい関係を築ける様施設全員が心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウィルスの為、現在は来られないが電話等で関係は継続しており、関係が途切れない様支援に努めている。	家族の面会や親戚の人、近所の人、友人、趣味仲間の来訪がある他、手紙、年賀状等での交流を支援している。家族の協力を得て、縮景園や法事、墓参りに出かけたり、馴染みの美容院の利用や外食等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。新型コロナ感染予防の為、今年に入ってから、出来ていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	必ず職員が間に入って入居者同士が関わり合い仲良く日々の生活が出来る様心掛、又支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了してもいつでも御家族様の御相談にのれる様な関係作りをしているので、必要に応じてアドバイスが出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様に合った生活の希望や意向を月に1回のユニット会議で話し合いの場を設け、職員は統括責任者を中心に検討している。	入居時にアセスメントを行い、これまでの暮らし方や生活歴、健康状況、生きがいやその人らしさを把握し、記録して思いの把握に努めている。日頃の関わりの中での利用者の様子や言葉を、そのまま介護記録に記録し、業務日誌や申し送りノートを活用(職員間の大切な要点を書いており、統括責任者作成の指示書を元に動いている。)して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の行動や表情から推し量り、家族の意見を参考に職員間で話し合っ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居される前の情報提供書を参考にし、御本人様からの情報を基にこれまでの暮らしの把握をする様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のラジオ体操、口腔体操、音楽歩行等1日の始まりに心身の状態をチェックし健康に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に一度のユニット会議で介護計画書のモニタリングを行い、入居者様に合った介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に、本人や家族の意向、主治医や看護師の意見、職員からの評価を参考にし、介護計画を作成している。毎月のユニット会議で、利用者一人ひとりのモニタリングを実施し、4ヶ月毎にカンファレンスを実施して、介護計画を見直している。又、利用者の状態に変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を読みながら日々の生活状態をしっかりと把握し、問題点や改善点をよく話し合い、その人に合った介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	生活する中で、年々体力の衰えと認知症の進行があり、その時々ニーズに合った対応と支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様一人一人の心身の力が発揮出来る様、安全で心豊かな暮らしをして楽しい日々が過ごせる様支援をする事を心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体である病院の医師と正看護師の往診があり、適切な医療を受けられる様、医師と介護が情報交換をして支援出来る様にしている。	かかりつけ医(母体の病院)である医師と24時間体制の対応があり、往診も週1~2回あり、急変時にも毎日往診が有るので、利用者・家族は安心している。訪問歯科医は2週間に1回往診があり、口腔ケアや入れ歯の調整も行っている。他科は、家族が受診に連れて行っている。脳外科については、職員が対応し、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	母体である病院長と正看護師の往診があり、生活の中で身体的な事や気づきを些細な事でも報告している。入居者が安心して生活が出来る様医療的な事にも心配のない様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院されても急性期から当病院の受け入れが出来、グループホームの入居者が入院されると統括責任者が1日に1回は病室に会いに行き、安心してもらえる様声掛けをし、看護師や医師と情報を交換しながら安心な関係作りをする様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合は終末期に向けた説明を医師より丁寧に分かりやすく家族に話をされ、御家族様のご要望に添った支援が出来る様取り組みをしている。	重度化や終末期に向けた方針について、事業所で出来る対応を、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族やかかりつけ医、職員、看護師と十分に話し合い、入所施設や医療機関(母体病院)への移設を含めて方針を決め、全職員で共有して支援に取り組んでいる。看取りについては、ぎりぎり迄、対応し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成し、施設内研修もしている。統括責任者が、管理者、リーダー職員に常々初期対応の実践力を身に付けるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回は必ず火災訓練をしており、入居者様の努力の基に実施している。何年かに一度ある大規模な地域の防災大会にも参加して地域との協力体制を取っている。	年2回、防災専門業者の協力を得て、昼夜間想定火災避難訓練、消火訓練、通報訓練、避難経路の確認を行っている。職員は動ける入居者さんと一緒に、非常階段からの防火訓練をしている。町内会の大きな防災訓練も職員は民生委員や包括に誘っていただいて、参加する事が出来ている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員はその人の生き様をしっかり理解し、「親しき仲にも礼儀あり」でその人の人格やプライドを傷つけたりすることのない様、気配りをしながらコミュニケーションを取っていきける様に対応している。	職員は内部研修で学んでおり、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。管理者は日頃から言葉使いに注意して、声かけするように伝えている。不適切なケアについては、統括責任者や管理者が指導している。記録類等、個人情報の取り扱いに留意すると共に、守秘義務についても順守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	施設内の生活の中での自己決定は御自分の希望で行われている。何か違う時はゆっくり時間をかけて説明し、再び自己決定する様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務先行でなく「ゆっくり、ゆったり」をモットーに日々の生活をしてもらっている。御自分のペースを大切に過ごしていただき職員も希望に添った支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	御自分の好きな洋服を着ていただいている。しかし夏に毛物やダウンベストを着たりされている事があるのでそのときは職員が優しく納得のいく様話をし、脱いでもらう様にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は外部より食材が来るので職員がすべて用意する。オンボロを配ったりお手伝いをしてもらう事もある。食事はとてもおいしいと入居者様は満足されている。	食事は食材業者に頼んでいて、湯煎して提供している。御飯は、事業所で炊いて提供している。利用者は、出来る事を職員と一緒にしている。利用者の状態によって、刻みやミキサー食にする等、食事形態にも配慮している。お好み焼きを作って食べたり、おやつ作り(ホットケーキにフルーツをトッピング・たこ焼き・焼きそば等)、外食でソレイユに行き、フードコートで好きな物を食べる等、食事を楽しむ事が出来る様に支援をしている。新型コロナ感染予防の為、外食等外出が出来なくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士に食事形態を変更したりする時は報告をし、相談する。一人一人の状態に合わせ水分量の少ない人にはポカリゼリーや牛乳ゼリー、フルーツゼリーを職員が作り、食べてもらったりして水分の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る所までは口腔ケアをしていただき出来ない部分は職員が仕上げをしている。フットブラシやマウスウォッシュを使い口の中の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを職員全員がよく把握し声掛け誘導をしているオムツ装着の方にも時間の間隔を見ながら職員2人介助にてトイレの中で排泄できる様、誘導し支援している。	車イスを使用し、歩けない人も職員2名で対応し、トイレで排泄していただける様に、職員が時間をみてトイレに誘導をしている。その為、スムーズに排便もしていただいている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	施設では、排便コントロール表を作成しており、便の形状をしっかりとチェックし医師が往診に来られた時に報告をして便秘にならない様に取り組んでいる。現在は便秘でお困りの方ははいらっしゃらない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴で洗身洗髪をし、御自分で出来る所は御自分で、仕上げは職員が上手に声掛けをしながら実施する。入浴日が決まっているが、嫌な時はスライドして入浴してもらっている。入浴の声掛けも職員はしっかりと支援している。	週2回、利用者が、ゆっくり入浴を楽しめるように心掛けている。又、利用者が浴槽に入って、ゆっくりしてもらえるように、利用者が自分で出来る事は自分でして頂き、職員が足りない所を入浴支援している。入浴したくない利用者には、声かけやタイミングの工夫をしたり、時間や職員の交代する等して対応している。体調に応じてシャワー浴や足浴を行ったりして、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食が終わると少しリビングでTVを観られ、それからお昼寝をしに居室に入室される。職員も居室のベッドまで誘導していき、安心してお昼寝できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は誤薬が絶対ない様職員2人が声を上げ、「〇〇様〇月〇日の朝のお薬です」と声掛けをし、「ゴックン」確認をします。薬袋には与薬した職員の名前を記入し、職員は個々に責任を持って服薬管理をしている。		

グループホーム 縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に一度の誕生日会や入居者様が好まれるホットケーキやお好み焼きを焼いたり、くだものやクリームを飾りながら楽しみながらトッピングして、職員と入居者様が一緒になって作ったり楽しんだりしている。リクエストを取りながら支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎年の計画はコロナウィルスで全て中止となりました。認知症カフェも中止で外出すら出来なくなり、ストレスが溜まらない様に入居者様を気遣いながら職員は支援をしている。	近所への散歩、近くの縮景園や美術館へ散歩に出かけ、日光浴をしている。プリンスホテルの23階に食事に出かけたり、ソレイユのフードコートに行き、利用者の好きな物を召し上がって頂いている。家族の協力を得ての外出や外食、買物等、家族と協力しながら、戸外に出かけられるように支援をしている。しかしながら、今年度に入ってから、新型コロナ感染予防の為、外食、買物等外出が出来なくなっている。	新型コロナ感染予防の為、外出が困難になっており、コロナが終息する事を願いながら、近隣での散歩を行い、利用者の気分転換・外気浴・日光浴でストレス開放の一助になればと期待します。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	毎年のお茶会の時など御自分で財布を持って買い物が出る様、職員と同行で欲しい物を買える様支援している。(今年は未定)			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書かれたりすると職員が切手を貼付し投函して手紙のやりとりが出来る様にしている。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様の共用されるリビングは、朝早く必ず窓を開け縮景園のさわやかな空気がリビングを通り抜けます。朝6時よりオルゴールで起床をし、朝・昼・夕と食事はクラシックを聴きながら「ゆっくり、ゆったり」と居心地良く過ごせる様、共用空間作りをしている。	居間兼食堂の大きな窓からは、自然の光が差し込んで明るく、共用空間には大きなソファ、食卓、イスが配置してあり、季節の花や観葉植物を飾り、テレビを見たり、おしゃべりしたり、利用者が思い思いの場所で、ゆったりと過ごせる居心地の良いスペースとなっている。壁には利用者のスナップ写真や季節の飾り物が飾ってあり、室内には観葉植物が置いてあり、温度や明るさ、湿度、音や換気にも配慮して、居心地良く過ごせる工夫をしている。	利用者が外出出来ない事もあり、リビングで利用者皆さんで楽しめるレクリエーション（折紙・ゲーム・クイズ等）、テレビでDVDの映画鑑賞、漫才を見る等、ストレス解消になる事を実施される事を期待します。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の中で仲よし同士が談話をされたりTVと観たり居室で音楽を聴かれたりそれぞれの思い通りに過ごせる様にしている。ただ孤独にならない様職員は気配りをしながら思い思いの生活が出来る様、工夫をする様にしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には少ないけれど使い慣れている物や以前飾っていた人形や本を思い思いに持って来られて生活をされている。ラジカセで自分の好きな音楽を聴かれたりタンスの中の物を片付けたりし、御自分の好きな様に過ごされている。	以前生活していた時の大切な物、仏壇・衣装ケース・絵画・ぬいぐるみ・ラジカセ・壁に飾る物・家族写真等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、過去の生活スタイルを大切に、本人が気持ち良く過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	いつも使用しているトイレやリビングが分かり、トイレに行ける人は職員の見守りの中自由に行ってもらったり、エレベーターで移動する人には職員は何も言わず側に付いて行き、出来るだけ自立した生活が自然に出来る様に陰でずっと見守りしながら生活が出来る様にしている。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない（コロナの為外出していません。）
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 縮景園

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない（コロナの為にしていません。）
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム縮景園

作成日 令和 2年 11月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	コロナウィルスの件があり、御家族様の協力もあって面会謝絶となっております。又外出も出来ていないので、かなりストレスが溜まっておられる御様子です。	まずはコロナウィルスの件が落ち着けば縮景園に行つて散歩をし、美術館に行つて心穏やかになってもらう事が出来る様にしたい。	入居者様のスケジュールを立てて外の空気を吸ってもらい、緑の木々の中でゆっくりと庭園を歩いて少しでも早くストレスを解消してもらうようにする。	1年間
2	52	入居者様がリビングで過ごされる事が好きでTVを観られたり談話をされており、全員がレクリエーションがあまり好きではないのでどうしたらいいのか困っている。	全員が参加できる様なゲームを1ヶ月に1回はやりたいと思っている。何をすることも全員参加で楽しく出来る物をする。	サイコロゲームやしりとり、くじ引きやおじゃみ等昔懐かしいゲームを全員参加でやってみたらどうかと思っています。	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。